

としま

豊島区生活支援体制整備事業
第10号 (2021年5月)

つながる地域づくり(つなまち)通信

第2回地域のささえあいの仕組みづくり協議会を開催

3/18(木)第2回地域のささえあいの仕組みづくり協議会を開催しました。協議会の委員は、民生委員・児童委員や高齢者クラブ、商店会、金融機関、区民ひろば、銭湯組合、福祉専門学校、介護事業者などからなる11名です。

今回はゲストに(株)サンシャインシティまちづくり推進部の安田さんにお越しいただき、池袋地域での取り組みについてお話しいただきました。また、シニアのICT活用について課題の共有、今後の取り組みについて議論しました。

サンシャインシティのまちづくりについて なんか面白いこと、その創造力を街の力に

サンシャインシティはオープンから40年以上経ちました。今後持続的に発展していくには、豊島区・池袋のエリア自体に活気があることが重要だという考えから、昨年4月まちづくり推進部ができました。「なんか面白いこと、その創造力を街の力に」をキャッチフレーズに、これまでの施設運営のノウハウを、地域と社会に広く表現をしていこうという思いがあります。

公共空間活用、地域連携強化、交通インフラとの連携、コミュニティ支援・創出、不動産開発など、様々な取り組みを通じて、まちを活性化するハブ的役割を果たしたいと考えています。グリーン大通りのイベントの共同運営や、東京都・豊島区の浴場組合と協力した噴水広場での銭湯利用促進の取り組みのほか、サンシャインシティ内すべての店舗のバリアフリー環境の情報公開などを実施しています。



(株)サンシャインシティ
まちづくり推進部課長
安田恵輔さん



最近注目しているニュースにIKEBUSを運営するウィラー社が、定額制の新しい地域交通サービス「mobi(モビ)」を豊島区で本格展開することを決定。今後なんらか連携を検討したいと思います。

安田さんのお話を簡単にご紹介しました。

通院や買い物、銭湯への移動にお困りの高齢者の方も多と思います。安田さんのお話にてきた移動サービス「mobi(モビ)」にご興味のある方は、ぜひ調べてみてください。

mobi ウィラー社



グループワーク

テーマ:高齢者の生活課題解決に向けた ICT 活用について



- ・高齢者の ICT 活用についてのある調査結果で、「使わない理由」の1位は「必要性を感じない」である。食事の写真を撮って送ると管理栄養士がアドバイスしてくれるという仕組みがあるように、個別の困りごとにアプローチできると活用の導入になる。
- ・買い物を商店にメールで注文して終わり

ではなく、高齢者の買い物を地域・商店ぐるみで見守る横の関係につながるような仕掛けを生みだせると良い。

- ・(委員の近く) 商店街は店が減って品ぞろえができなくなってきた。
- ・リアルな活動が一番いいが、現状では難しい中でそれを補完する手段が必要。高齢者と学生との Zoom 交流会を実施し、コロナ禍での新たなつながりができた。
- ・コロナでひきこもる方がすでにいる。高田地区の民生委員は LINE グループを作り連絡しているが、住民はそうはいかない。直接足を運んで声を聞く必要がある。完全に ICT ではなく併用・補完の時代。それをどう作り上げていくのが課題。

- ・現状の最大の課題は使いこなせる高齢者が少ないこと。若者に高齢者向けの情報サービスの存在・必要性を知ってもらい、波及すると良い。
- ・銭湯で YouTube 動画を作ったが高齢者は見ない。まちの電気屋さんや買い物、医療機関、他分野の高齢者向け案内など、高齢者に安心で有用な情報をセットで提供することで、資金面の助成等もあると良い。



- ・高齢者クラブの調査では、41.0%がスマホ、32.7%がガラケーを持っている。ガラケー利用者にスマホに切り替えてもらうためには、試しでレンタルできる等の仕組みがあると良い。
- ・スマホ教室費用の助成、Free Wi-Fi を安全につなげるための情報提供なども必要。ICT 利用のサポートをすることで、スマホを使用して充実した生活につながっていく循環が生まれる。



- ・高齢者は、安心信頼できる人にどう導いてもらうかが鍵。スマホ教室やアプリダウンロード、使用方法の案内、詐欺が多いメールは使わず LINE を使うなどのアドバイスも必要。

<ICT 活用について取り組んでいきたいこと>

◆スマホなどを使うことのメリットを周知

活用することによって健康づくりや介護予防、生活支援などにつながることを知らせる。

◆ICT 活用を学ぶ場(講座など)の把握・周知

どこに行けば ICT 活用について学べるかを把握して、地域ごとに情報提供する。

◆ICT 活用に係る費用面の情報整理・周知

無料や低額で参加できる講座や、講座を開く際の助成金制度などの情報を集めて周知する。

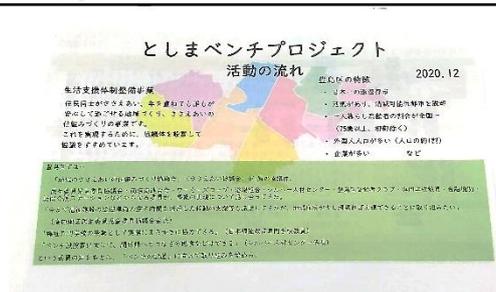
◆通信環境などの確認

高齢者が安心して ICT を活用できる環境について確認する。

その他の話題



としまベンチプロジェクトのノウハウをまとめて、他地域や企業に示すことで活動が広がるのではないかと協議会での意見を受け、活動マニュアルを作成しました。



第2層生活支援コーディネーターを4月から配置する。愛称は「高齢者の生活支援推進員」で、住民や地域団体、商店、企業等と連携しながら地域づくりを推進していきます。8圏域中、まずは4圏域からスタートします。

地域活動団体 ICTの活用について

～Zoom ズームを使った活動・交流を取材しました～

フレイル対策センター×メロス言語学院 オンライン交流会

日時：1月29日（金）10：30～11：30

会場：フレイル対策センター

高齢者の ICT 講座の一環で、今回は Zoom を使ったメロス言語学院留学生とフレイル利用者との交流会が、地域の CSW、第1層生活支援コーディネーターの紹介で行われました。交流の様子を紹介します。

【内容】

はじめの30分は、ノート PC (パソコン) を使って Zoom の使い方講習会。はじめて自分の顔が PC 画面上に写ったのを見て歓声があがりました。音声を消すミュートやチャット機能も使用してみました。

そしていよいよ留学生とのオンライン交流会。参加者の一人がインドネシア語で「おはようございます」と投げかけると、画面の中の留学生が笑顔になり、一気に打ちとけたムードになりました。自己紹介のあと「日本語の勉強で難しいところ」「コロナ渦の日本でお正月をどう過ごしたか」等の話題で盛り上がりました。最後は「コロナが落ち着いたらぜひフレイルに遊びに来てください」と手を振り、別れを惜しみながら終了となりました。

PC の台数の関係で定員は4名の予定でしたが、当日気になって見学に来た方2名も急きよ参加されました。

コロナが収まったらぜひ
フレイルに遊びに来てね



【感想・コメント】

- ・(学生) 今日参加してくれてありがとうございました。とても良い経験になった。
- ・(参加者) コロナ禍で外国人の方が苦境にたたされているのを心配していたのでこんな形で交流できてよかった。
- ・(参加者) 昔、娘が留学した時から連絡でPCを使っていた。今回使い方がわかったので、次回は自宅のPCから参加したい。

参加したい方は

東池袋フレイル対策センター

東池袋2-38-10

電話:03-5924-6212

地域のオンラインサロン交流会

どうする?どうしてる?~コロナ禍での活動をきいてみよう~

日時:3月10日(水)14:00~15:30

会場:サロン活動者宅・社協CSW事務所

サロン活動者が、現在の活動状況や各サロン等が抱えている悩みを話し合い、コロナ禍での活動方法のヒントやきっかけになればという目的でZoomでの交流会が開催されました。団体の近況やコロナ禍での活動の工夫や悩みなどを話し合いました。交流の様子を紹介します。

【参加団体(参加者)】

- ① いきいきクラブ in 豊島(下田さん)
- ② 新大塚みんなの広場(古田さん)
- ③ サロンさんぽみち(東さん)
- ④ サロン寿(中島さん)



【感想・コメント】

- ・今後「認知症との付き合い方」セミナーを実施予定。
- ・全く知らない方とZOOM会議をするのは初めてなので、なかなか興味深かった。
- ・コロナ禍で活動をお休みした時期もあるが、消毒や人数制限等どうすればできるか、何を守れば良いかを考え工夫し開催している。
- ・(参加者より今度「だれでも食堂」を立ち上げる話を聞いて)見学したいので、できたらぜひ教えてほしい。
- ・区内で活動されている他のグループの方々とも意見交換ができれば良い。

発行 豊島区 高齢者の生活支援推進員(第1層生活支援コーディネーター)

【問い合わせ先】

豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課

〒170-0013 豊島区東池袋1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎3階

電話 03-3981-4392 メール csw_seikatsu@a.toshima.ne.jp